

「さとおや」ってなあに??

子どもは安定した環境の中、保護者の支えを得ながら、心身ともに成長していきます。しかしながら、虐待・親の病気・経済的な理由などさまざまな事情により、保護者と離れて暮らしている子どもたちが、大阪市では約1,100人います。そのうち約8割が施設で暮らしています。

こうした子どもたちを深い愛情と正しい知識をもって自身の家庭に迎え入れ、育ててくださる方を「里親」(さとおや)といいます。

大阪市では現在、里親は200家庭ほどしかなく不足している状況です。



なぜ「里親」が必要なの？

子どもは、特定の大人のもとで愛情を受けながら育つことで、安心感や信頼感を得ます。

子どもの成長にとって、家庭的な環境で、里親さんと毎日一緒に生活することは、とても大切なことなのです。



「里親」の種類

専門里親

被虐待経験のある子どもや
非行等の問題を有する
子どもを経験と専門知識を生かし、ご自身の家庭で
養育して下さる方

養育里親

親の病気、離婚などさまざまな事情により
親と過ごせない子どもたちが、
もとの家庭で生活できるようになるまで、
または子どもが自立できるようになるまで、子ども
を家庭に迎え入れて下さる方
里親を必要とする期間は、子どもの事情に
よってさまざまです。生活の都合に合わせて短期間
でもご協力いただけます。

養子縁組 里親

保護者がいないまたは
育てられない子どもを
自分の養子とすることを
前提として
育てて下さる方

親族里親

親が行方不明・死亡・拘禁・
長期入院などの理由で
子どもを養育する人がいない場合、
民法に定める扶養義務者及びその
配偶者である親族で
養育して下さる方

(短期間の預かりの場合、
数日から数週間のこともあります。)

週末里親

児童養護施設等で生活する
子どもを、月に1～2回の週末や長期
休み、お盆、正月休みなどに
家庭に迎え、家庭生活の体験を
行ったださる
ボランティアの方

家庭で一緒に寝起きし、ごはんを食べ、
大きな声で笑い合える人がいることで、子どもは自分も周りの人も大切に思うことができます。

あなたもできることから始めてみませんか？

詳しくは大阪市ホームページ「さとおやってなあに??」をご覧ください。

<https://www.city.osaka.lg.jp/kodomo/page/0000043968.html>

